



頭のかたち

生まれたばかりの赤ちゃんは、頭が柔らかいのでかたちがいびつになりやすいです。また、上を向いて寝ている姿勢が多いため、向きぐせや一定の方向で寝ているとその部分に圧がかかり、いびつになります。

対応方法

抱っこをする、頭の向きを変える

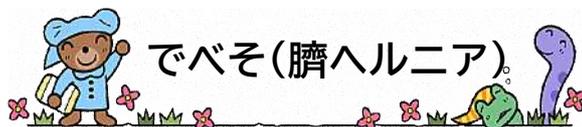
寝返りが出来るようになる5~6か月ぐらいまでは、自分で頭の向きを変えることが出来ないため、抱っこをしたり、頭の向きを逆向きにしてあげましょう。



ベビーベッドの向きを反対にする

赤ちゃんは明るいところや、声のする方を向くようになるため、ベビーベッドの向きを反対にするなど、いつもと逆の方向を向きやすい環境をつくってみましょう。

向き癖のある反対方向から音を鳴らしたり、話しかける



でべそ(臍ヘルニア)



なぜ起こるの？

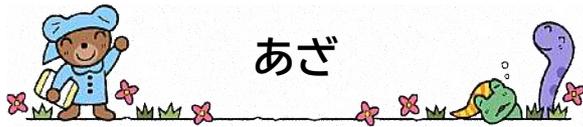
おへその内側には筋肉がなく、隙間が空いています。泣いてお腹に力が入ると、お腹の中の圧力が上がり、腸がその隙間に入り込むため、おへそがおされてでべそになります。でべそは新生児10人に対して約1人に発生します。

いつ治る？

6か月くらいになると腹筋が発達し、おへその中に腸が入り込んでいた隙間が狭くなり入り込めなくなるので、1歳前後でほとんどの赤ちゃんが治ります。

医療機関受診の目安

- ・表面がただれたり、赤く腫れたりして感染が疑われる場合
- ・1歳を過ぎても治らない場合(隙間が大きく自然に治らない可能性が高いため)
- ・吐く、腹痛がある場合(発生は極めてまれですが、ヘルニア嵌頓が疑われるため)



あざ

皮膚の一部の色がその周りの皮膚の色と違って見えるものをあざといいます。通常は生まれつきか生後間もなく生じる色の変化のことで、

青いあざ



黄色人種では、大部分の赤ちゃんで、お尻から背中にかけて、青あざがあり、これを蒙古斑といいます。蒙古斑は生後 2 歳頃までには青色調が強くなりますが、その後徐々に薄くなり、10 歳前後までには大部分が消失します。稀に腕や足、お腹や胸などに蒙古斑が生じることがあります。このような場所のできる蒙古斑は、「異所性蒙古斑」と呼ばれます。消えない青あざに対しては治療が必要な場合があります。

赤いあざ



血液中に存在する赤血球のために赤く見えるあざは「血管腫」と呼ばれています。代表的な赤あざは、生まれつき存在する平らな「単純性血管腫」と生後まもなく生じ、1 歳頃までに急激に大きくなり、その後徐々に小さくなる「イチゴ状血管腫」です。一部のイチゴ状血管腫では、小さくなくても皮膚の表面に細かい血管が浮き出たり、皮膚にあとが残ることがあります。

茶色いあざ



茶あざは表皮に存在するメラニン色素が多いため、周りの皮膚より茶色く見えるあざです。カフェオレ斑、扁平母斑などがあり、年をとって生ずるシミやソバカスとは医学的に区別されています。

黒いあざ



黒いあざは黒子、通常型、巨大型にわけられます。黒子はいわゆる「ホクロ」で、盛り上がるものと、平らなものがあります。3~4 歳頃から発生し、次第に数が増えます。通常型は普通によくみられる黒あざで、多くは生まれた時から存在します。巨大型は、からだや手足など、広範囲にみられ、生まれた時から存在します。

対応方法

あざの種類、大きさや場所によっては治療をすることがあります。かかりつけ医に相談してください。